Aさんの場合

息子さんが知的障害を伴う自閉症（当時６歳年長）

居住地：宮城県利府町
インタビュー日：2023年6月13日

お話　：Aさん
聞き手：橋本武美

橋　それでは、始めます。
A　はい、よろしくお願いします。
橋　地震の時、うちの場合は、私と障害のある息子10歳は離ればなれでいて、合流するのにもすごく時間がかかったんですが、いろんなケースがあって、今日お話を伺うAさんの場合は、ご家族だけじゃなくて……
A　そうですね。子どもの未就学の園のお友達が、お家が東松島市で全壊してしまったので、もう家に帰れない……まぁその時はどうなってるかは分からなかったんですけども、結局はもう全壊で帰れなかったので、私の家に避難してもらってたんですけども、やはりもう当日から電気もガスも水道もない生活だったので、自分の子どものほかに、お預かりしたお母さんと子ども2人の食材を調達しなければならないっていう予想外のことがありました。あとうちの子どもは当時6歳で、預かったお友達も、うーんと何歳だったかな……
橋　同じ園だったのね？
A　そうですね、たぶん4歳と1歳ぐらいで、2人とも障害があったんですね。
橋　そうなんだ。
A　なので、やっぱり言っても分からない部分があったので、「ご飯食べたい」とか「テレビ見たい」とかって言い出した時に、なだめることができなかったんですよね。
橋　大変だぁ。
A　あともうその時は、水を調達しなければいけないっていう大仕事があったので。人数が多いとやっぱ飲み水も調達しなくてはいけないので、何度も通ったりして、それで家にいない間にお菓子とか食べられてたりすると、すごい悲しいっていうか……
橋　（笑）普通の時じゃないからねー。
A　そうなんですよ。私もともとストック魔なので、結構お菓子とか食材を蓄えてたんですよ。だけど、子どもたちは分からないじゃないですか。だからガンガン食べるんですよ（笑）
橋　この時とばかりに。
A　そう、「大事に食べて」とも言えないし…なんて言ったらいいかな、モヤモヤ感っていうか（笑）結局それを聞いてもらえないと隠さなければいけないんですけど、その隠すっていう行為自体にも罪悪感っていうか、なんて言うのかな、いろんなモヤモヤがありました。
橋　うんうん。自分たちの家族だけじゃなくて。
A　そうですね。その方は2人の男の子のほかに、上に女の子が2人いたんですね。4人のお子さんがいて……
橋　あ、ほかにもいたの？
A　その上のお姉ちゃんたちと連絡がなかなか取れないし、お父さんも漁師で連絡取れなかったんですよ。当日取れたか取れないかぐらいで。
橋　後から分かるんだもんね、お家が全壊だったっていうのも。
A　たぶん当日の夜か次の日ぐらいに。とにかく電話もメールも全然つながらなくなったので、たぶんはっきり分かったのは次の日ぐらいだと思うんですけど。そのお姉ちゃんたちも小学生だったと思うんですけど、学校近くの歩道**橋**

にのぼっててギリギリ津波を免れたんですよね。で、お友達が津波に流されていくのを見てるんですよ。そのやり取りをしてるのは私もそばで聞いてたので、ほんっとにもうただごとじゃないことが起こったんだなっていうのは、もう嫌でも感じるっていうか……。

橋　家でお預かりしたのは、お母さんと子ども 2 人？

A　はい。

橋　で、3 日間？

A　何日だっけ……。

橋　まぁ正確じゃなくても。

A　うーん。

橋　で、お姉ちゃんたち 2 人はほかの場所で、高いところの歩道**橋**で助かったけど……まぁいろいろ見てるから、そちらの心のケアもものすごく大事だよね。で、そのお母さんと一緒にいたんだよね。もちろん自分のうちのこともあるし……。

A　そうですね。だから、子どもたちと連絡取れた、大丈夫だった、旦那さんと連絡取れた、生きてて良かった、で、そのあとにだんだん、やっぱりいろんな人たちの救護っていうか、助けたりする活動とかみんなするじゃないですか。そうすると知り合いを見つけてしまったとか……。

橋　遺体安置所がね、あっちこっちにね……。

A　そうですね。だからお父さんがそういう捜索の手伝いに入ってたけど、「もうとにかく知らない人であってほしいっていうふうにしか思えなかった」って。「ちっちゃい子なんて特につらかった」って言ってたんで。

橋　そっか、そこのお宅は東松島だからほんとに被害がね。

A　そうですね。大変でした。

橋　うん、内陸の人たちとは違う部分があったよね。

A　そうですね。まだ利府はそうでもなかったじゃないですか。

橋　内陸だからね。何もないわけじゃないけど、その海側のほうの人たちの被害とはちょっと違うよね。

A　全然もう半端じゃないぐらい違ったので……すごく悲惨なことは肌で感じることができたというか……。

橋　うちの夫は地方公務員だから、遺体安置所のお仕事がすぐ、その仕事をみんなが交代でローテーションでやってて。で、グランディ（注：グランディ 21。利府町にある宮城県総合運動公園）かな、でっかい安置所があって、そこに皆さんが来て、探して、見つかって、見つからなくてとか、毎日毎日見つからないけど来るとか、見つかったあととか、もうやっぱりそういうのを見聞きしてる方のつらさとかって、ちょっと特殊だなって。そのお父さんも、自分の家も全壊で、子どもたちもバラバラでね……。まずでもほんとにね、利府の知り合いのところで、お母さんと 2 人が安全なところにいたっていうことは、すごく彼らの助けになったと思う。

A　そうだったらいいですね……。

橋　いやそれは本当にそうだよ。

A　その時、主人が単身赴任だったんですよ、岩手で。それで地震が 14 時 46 分だったから、50 分ぐらいの時はまだ電話が通じたんですよ、普通に。

橋　直後だけ通じたよね。

A　直後だった。それで「大丈夫だった？」「大丈夫か、えらいことになってるけど大丈夫か」っていう話を、電話でできたんですけど。

橋　岩手も大変だったじゃない。

A　大変だったんですよ。

橋　どっちも大変だったよね？

A　まだ沿岸部とかにいなかったので。でも、全然大丈夫っていうところではなかったんですけど、やっぱり会社の中で業者さんとかそういう方が行方不明になったりしたので、ほんとにただごとではないっていうか。

橋　直後にその安否確認だけはできたのね。

A　できてました、はい。

橋　そのあともう通じなくなった感じ？

A　全然通じなくて。あとどのぐらい電気が使えない状態が続くか分かんなかったんで、ニュースとか見たかったん

ですけど、もったいなくてつけてられなくて。
橋　電気ね。まぁ水が一番だけど、いきなり 5 人になってるし（笑）でもそうだね、電気、水、食料……。
A　でもその時って、何が一番長く手に入らないかが分からなかったんで、水はまだ買い置きしてたのがそこそこあったので、あと大人の私たちはジュースでも何でもいいかなと思ったんで、とにかく子どもたちの分だけ確保しなければと。
橋　なるべくお水を減らさない努力っていうかね。
A　そうですね。とにかく水は貴重っていう感じだったので。そういえばさっきのグランディの話なんですけど、うちはグランディがすぐ近くなので、結構ちっちゃい時から、前の公園とかで遊んだり散歩したりする生活圏だったんです。でもすごく不思議なことに、震災が起きて遺体安置所になったじゃないですか。それから全然行きたがらなくなったんです。
橋　子どもが？
A　子どもが。何かを感じるのか、泣くんですよ。今まで何ともなかったのに、行くとすごく泣くようになってしまって。
橋　見えるのか聞こえるのか、感じ取るんだよね。
A　たぶん何かを感じてるんだと思ったんですけど、とにかく泣いて行けなくなったんです。半年か 1 年ぐらいは全然行けなくて、そういうの何か分かったんだろうなって、すごく不思議に思いました。
橋　震災当日、6 歳の息子さんはどう……。
A　未就学の園からちょうど帰ってきて、私と一緒に家にいたんですよ。
橋　一緒にいたのね。
A　はい。で、『ミヤネ屋』を観ていて（笑）私もコーヒー飲んで、当時冬だったんでコタツに座ってたら、徐々に揺れが始まって、まぁいずれ終わるだろうと思ってたらだんだん強くなってきて、長いし、あ、これはまずいなと思って、子どもを抱きかかえて外に出ようと思ったんですけど、たぶん揺れの一番ピークの時に出たと思うんですけど、真っ直ぐ歩けないぐらいすごく揺れて。
橋　そうそう。
A　私は地震全然怖くないんですけど、その時初めて「怖い」って大声出した記憶があります（笑）
橋　今まで経験したものではなかったよね。これは……っていう。
A　宮城県沖地震の時には、子どもだったし外にいたんですよ。
橋　あ、経験してるんだ。
A　はい。その時は外でトランポリンしてるような感じで、怖いって感じじゃなかったんですよね。それが今回は、なんかもうすっごいことが起きたぞ、ぐらいの感じだったので、もうほんとにおっきい声で「怖い！」って言って外に出たんですけど。近所の人もみんな外に出てて、これは大変だねーみたいな。
橋　そっかそっか。一軒家で、周りの人たちも外に出てたのね。
A　はい。もう余震がとにかく続いたじゃないですか。
橋　長かったねー。
A　全然落ち着かないっていうか。
橋　収まる感じがないっていうか。
A　もう大丈夫かなって思うとまたガーッて揺れるんで、いつになったら収まるんだろうっていう。地盤が壊れたのかと思うぐらい安定しなかったじゃないですか。もう半分揺れてるのが当たり前みたいな感じで。
橋　ずーっと、自分の三半規管がちょっとおかしくなって、揺れてるのか揺れてないんだか分かんないような……。
A　そう、全然分かんなくて。でももうこれだけのことが起きたから、電気もガスも水道ももうしばらくダメだろうから、明るいうちにやれることやったほうがいいってみんなに言われて、布団を敷いて、ご飯も冷蔵庫である物を食べられるように準備しておくとか、暗くなったら困るので庭に置いてるソーラーライトとかを家の中に持ってきたりとか、ロウソク持ってきたりとか。今のうちにやれることをやっておこうって。
橋　でもそれはすごく、たぶんみんな良かっただろうな。結構大勢っていうか近所の人たちがいて、夜になる前にやれることをやっとこう！ってなったのは、たぶんすごい良かったよね。
A　そうですね。

橋　で、子どもと一緒にいたもんね。
A　子どもが一緒だったから、私まだ良かったんですよ。
橋　うん、しっかりするよね。
A　もし離れてて、一体どうなってんだろうって思ったらもう、もうそれどころじゃないっていうか、とにかく迎えに行かなきゃっていう感じになると思うんで……。
橋　うちはそうだった（笑）
A　ですよね。家のこと、水溜めておこうとか準備しておこうってならないじゃないですか。だから、そばにいたからこそ準備ができたっていうのは大きかったです。
橋　布団を敷いとこうとかね。
A　ですね。電気ももうしばらくつかないだろうからって言われて、もう……。
橋　夜のために備えた？
A　そうですね。
橋　ちゃんと食事とね。
A　私その時は町内会の役員をやってて、その日の夕方に配布の仕事をしなくちゃいけなくて。もう、わーって揺れてて大騒ぎしてる時に、たまたまその同じ作業をする役員さんが近くに来たんで「今日の配布どうすんのー？」とかって。
橋　（笑）
A　「そんなこと言ってる場合じゃないでしょ！」とかって怒られて、「そんなの知らないよ！」とかって（笑）
橋　真面目だから（笑）
A　（笑）でもやっぱり 3、4 人ぐらいで集まってやってることだったんで、「やんないとダメだよねー」とかって言って 17 時ぐらいに集会所に集まってやってたら、またすんごい揺れが来て。
橋　あ、でもやってたの？
A　やったんですよ。
橋　え、その時子どもは？
A　連れていったんです。
橋　あ、連れてったのね。まだとてもじゃないけど離れられないよね……。
A　うん、置いていけないんで。で、集会所でやってたらまたすごいの来て、集会所が潰れるんじゃないのーみたいな。で、その一緒にやってた役員さんが「こんなところで死にたくないから私もうやんない！」とかって言って。「どんなに怒られたっていいからもう知らない！」とかって言ってて（笑）
橋　そうだそうだ。後から思うと、何であの時やったんだろうねって思うよね（笑）
A　そう、思ったんですけど、とりあえずやんなきゃいけないから（笑）なんか、そうですね……アホです。
橋　で、家に戻ってきて、どのタイミングで東松島の方たちは来たの？
A　15 時ぐらいに、もう信号も止まってるから道路がまったく動かなくて、「もう身動きとれないの」って。で、うちから 3 分ぐらいのコンビニに停まってたんですけど、「もうどうしようもないから一旦行っていい？」って言われて、「いいよ」って言った。
橋　近所にいたのね？
A　はい。
橋　それが午後？夕方……？
A　午後 15 時ぐらいです。
橋　あ、じゃあ割とすぐ。
A　そうですそうです。たまたま近くに。
橋　地震の時にコンビニにいたの？
A　その方のお母さんが、利府の特別養護老人ホームにいて、そこに行った帰りだったんですよ。
橋　あー、なるほど。
A　で、すぐ近くにいたので、「ごめんちょっと家に帰れそうもないから、落ち着くまで行っていい？」って言われて、「いいよ」って言って。

橋　そうなんだ、すぐ近くにいたの。

A　そうなんです。もうその時、普段だったら 3 分くらいで着くところが、たぶん 4 、50 分くらいかかったんですよね。

橋　車でいたのね。

A　はい。で、「もうみんな慌ててるから、多少車がぶつかっても何にも言わないで来たよ」って。

橋　（笑）そうー。

A　「もう全然気にしない感じだった」って言って、多少ベコベコになって来て（笑）「もうそんなこと言ってられなかったもん」とかって言ってて。とにかく辿り着けて良かったっていうぐらいの感じで来て。

橋　で、そのまま少し収まるまでって感じだったけど、なんかいろいろ、揺れも来るし。

A　そう、収まるどころじゃないって……。

橋　家も東松島だし。

A　分かれば分かるほどひどいのが広がっていく感じだったんで、もうこれは……。

橋　もう自然にだよね。

A　全てが長期戦だなっていう感じだったじゃないですか。今日明日で何とかなることじゃなかったんで、もうこれはっていう覚悟を持って、毎日毎日過ごしていくしかないかなって感じだったんですけど。うちの子は重度の自閉症で、まだ小さかったので、指示とか言ってることが全然分かんない時だったんですけど、それでも、これはえらいことが起きたんだなっていうのを本人なりに…今考えるとなんですけど、本人なりにすごく理解してたんだなって思いました。

橋　何かを感じて、これはただごとじゃないと。

A　「テレビがつかない、どうしたの？」とか、夜「電気は？」「お風呂は？」って……すべてにおいて我慢しなきゃいけない状況だったじゃないですか。それを、まぁ夜ぐらいは「テレビ、テレビ」とか言ったんですけど、あぁもう言ってもどうしようもないんだなって分かったみたいで。

橋　つかないんだなって。

A　だってあの時、利府って車全然通んなかったんですよ。たぶんメイン道路は通ってたと思うんですけど、家の前みたいな枝道は全然車通らなくなって。

橋　え、通らないっていうのは、車が並んでて通れないんじゃなくて、来ない？

A　来ない。その日の夕方に佐川急便が走って行った時に「ああ、車来た！」って思ったんですよ（笑）それぐらい全然、車がピタッと来なくなって。

橋　まぁ主要な道路は逆に大変なことになってたんだろうけどね。

A　なってたんですけど、団地に入ったらもう全然車が来なくなったんですよ。たぶん主要道路は詰まってて、こちらの団地のほうまで来てなかったのか…だと思うんですけど、もう本当に車見なくなっちゃって。ガソリンもなかなか手に入らなかったし。

橋　そうだね。スタンドも行列で、並ばないとガソリンを入れられなくて、それも一人例えば 10 リットルだけとか、最初のうちってそうだったよね。

A　そう。制限ありだったじゃないですか。それか、開いてたとしても救急対応だけで。

橋　そう、その時、救急の人たちと一般の人みたいな、そっちが優先とかってやってたよねー。

A　そうそう。すぐ近くのスタンドは開いてたんですけど、緊急車両だけの対応だけだったんで、しばらくはガソリンが貴重で、そんな迂闊に車を走らせるってことはできなくて。もし途中で子どもが具合悪くなった時に病院に行かなければいけないっていう思いがあったので、その時、車に半分ぐらいしかガソリンがなかったんですよ。その時のためにとっておかなければいけないと思って、とにかく車はもう、エンジンもかけなかったですね。

橋　減らさないように。

A　はい。その時、妊娠してもう出産間近の人たちも何人か知ってたんですけど、もともと予定してた病院でも断られるぐらいの状態だったので、本当にそれも気の毒でした。

橋　へー。病院は病院で大変だっただろうし、場所によって、海に近いほうの病院はもうやっぱりとてもじゃないけど受け入れられないし、何かあったらその病院からももう避難しなきゃならなかったんだろうし。まぁ内陸だって緊急のために開けておくみたいな、普通の方はちょっと今無理、みたいな感じだったよね。

A　そう。

橋　お薬とか…本人はその頃は服薬とかはあった？ 6 歳当時。

A　飲んでたんですけど、命に関わるようなもので、毎日飲まなきゃ絶対ダメよっていうのじゃなくて。

橋　うんうん、落ち着くための薬ぐらい？

A　はい、そういう薬だったので、多めにあったので、全然その心配はなかったです。

橋　そのタイミングもね、逆に次の日が予約の日だったとか、薬ないとかっていう人たちもいただろうしね。

A　そしたらもう最悪。

橋　うちも薬はいっぱいあったの。タイミング的に。

A　そう、薬は全然大丈夫でしたね。……なんか結構、物の調達って大変だったじゃないですか。利府って意外と、本当に無かったんですよ。中途半端に仙台圏だったからなのか、牛乳とかプリンとか、子どものために欲しいなって思う物が全然手に入らなくて。だけど大和とか大衡のほうに行くと意外とスムーズに手に入って。

橋　利府では、もう棚がカラーンってなってた？

A　そうですね。たぶんその日ってもう電気も来なかったから、レジが使えなかったから販売しなかったお店がほとんどで、次の日ぐらいから、計算してザックリとした金額で販売はしてたんですよ。お菓子 230 円ぐらいのやつだったら 150 円とか（笑）ザックリとした金額で。

橋　え、それは一般商店みたいな感じ？

A　生協とかツルハ薬局とかもそうでした。

橋　ああそう。

A　はい。お一人様 3 点まで。

橋　そういうのはあったね、3 点までって。鶴ヶ谷の生協に何日かあとに私は行ったんだけど、もちろん並んでて、お店の中がちょっとヒビが入ったりとかそういうのがあるからお客さんが中に入れなくて、店員さんが御用聞きのように、その 3 つは何が欲しいか、オムツはどのサイズとか、どういう飲み物ならあるので、とか。トイレットペーパーは最初の人たちがみんなバーって買って、ああもうなくなってしまった……とか。で、どんどんどんどん「品切れでーす」とか「売り切れでーす」「何々終わりでーす」とかって。ああそっか、そうだよなー、もうこの順番だと何が買えるんだろうって思いながら。

A　もう品切れのやつが書いてあるんですよ。

橋　そうそう。

A　で、トイレットペーパーだったらメーカーとかなんて全然もう見えなくて、シングルとかダブルとかそんなことも言えなくて、トイレットペーパーと、あとオムツはまだ最初のうちは「メリーズのＭです」とか言って取ってきてもらうシステムでしたけど。たぶん 3 日目ぐらいになったらもう、そういう欲しい物っていうのはどこも無かったんで。

橋　うん、ほんとだね。

A　あと、すごいひどいなと思ったのは、普段売れないような物と抱き合わせで売ってる。

橋　へー、セットで売る？

A　ありました。例えば、水ってみんな欲しい時期だったじゃないですか。それに普段売れないようなジュースとかをまとめて、ちょっと高値で売ってるみたいな（笑）

橋　へー。

A　「普通に戻ったら買わないからな」ってみんな言ってました（笑）

橋　それは初めて聞いた。

A　利府でもありましたね。某薬局とかで、普段出ないようなものと売れ筋を併せて売るっていうのはありました。ここぞとばかりに捌きたいのかなっていう。

橋　でも確かにそういう、みんなが買わないものだけが棚に残っていくんだもんね。でも抱き合わせで売るとかは無かったなぁ。

A　いらないけど、とにかく欲しい物はあるから買うっていう感じで。

橋　それでも買う。

A　うん。あの時に良かったなと思ったのは、手持ちに現金持ってて良かったなってすごい思いました。

橋　あ、そうね。それは。
A　カードも使えなかったし、もちろん PayPay なんてその時なかったし。クレジット決済がとにかくできなかったので、何を言ってもお金だったじゃないですか。で、やっぱりレジも使えなかったので、1,000 円とか区切りのいい現金が無かったら心細かったなと思いますね。
橋　確かにそうだわ。レジ使えないんですーって、袋か箱か何かで、昔の商店みたいにやってたりなんかして。そう、確かにやっぱり現金が私もあって良かったなって。
A　もう一個思ったのは、ガソリンスタンドでちょっとずつ入れられるようになった時に「うちのスタンドのカードの人だったら入れられます」っていうのがあったんです。
橋　あった、あった。
A　だから、あー持っとけば良かったって思って、震災終わってから、近くのガソリンスタンド全部カード作って（笑）その時やっぱり、あのカードがあったら入れられたのかってすごい思ったんですよ。だから、主要なとこだけは全部クレジットカード作って。まぁ今落ち着いたんでほとんどやめたんですけど。そういうのも大きかったなと思いました。
橋　そうだねー。で、利府のほうで買えなくて、どの辺に？
A　大衡とか大和とかだとまたルートが違うのか、結構早い段階で豆腐とかヨーグルトとかっていうのも手に入ったんですよ。もちろん制限はあったんですけど、利府だと本当に手に入らなかったんです。
橋　大和とか大衡はある程度まだあったんだ。
A　そうですね。私の実家が県北のほうなんで、その兼ね合いで通り道なので行ったんですけど、明らかに利府とか仙台圏の雰囲気とは違って。
橋　都市部のほうからどんどん無くなっていって、山形のほうに買いに行くとか、ね。そういうこともあったなぁ。
A　そう。山形はそんなにそんなに大変じゃなかったって友達が言ってて。病院とかの用事があった時に、もう車いっぱいに買い物して帰ってきたとかっていう人もいたので。
橋　そうなの、場所によって。
A　場所によって手に入るものにすごい差があったなと思いました。
橋　そうだね。うちは山形にお風呂に入りに行ってた、温泉に。
A　あー。仙台とか宮城ほど、まぁ大変なことは大変だったけど、もう何もかにも手に入らないっていう感じではなかったって言われて、そうかって。利府は、やっぱり 4 月いっぱいぐらいまではイオンも…
橋　店がダメージ受けたとかもあったよね。
A　そうです。利府のイオンは、2 階の専門店街のほうがもうダメだったんで、1 階の食品売り場の脇ぐらいに、生活用品がちょっとずつ、最低限は置いてあったんですけど、本当に欲しいと思えるものがなかなか無くて。それで私、4 月の初めぐらいに富谷のイオンに行ってみたら、品数多くてびっくりしたんですよ。うち小学校の入学のタイミングだったので、ネットで注文してたものとかは全部もう「お届けできません」みたいな感じになっちゃって、せめてできる範囲で準備したいなーと思って富谷に行ってみたら、利府より全然買えるものが多かった。それにあの状況だったから、入学式とか卒業式用のスーツなんかも、ほんっとに投げ売りみたいな感じで、1 万 5,000 円ぐらいのスーツを、私 2,000 円ぐらいで買ったんですよ。
橋　そういうのをやってたんだ。へー。
A　もう本体価格の半額の半額の 3 割引みたいな感じになってて。あまりに安いんで「こんな安くして大丈夫なんですか？」って聞いたら、「もう買ってもらえるだけでありがたいです」って言われて。そっか、そんなちゃんとした服着て入学式なんてやれる状況じゃなかったから、そっかーと思って。
橋　でも買った？
A　買いました、ありがたく（笑）
橋　そうなのかー。で、入学式も延期？延びるだろうけど、まだ分かんなかったよね。
A　うん、4 月 22 日に入学式だったんですよ。
橋　あぁ、そのぐらいだったね。
A　その日、本当にもう着の身着のままの服装で来た方もいますし、やってもらえただけで十分っていう感じだったんです。で、やっぱり入学式だから、お祝いにご馳走作ってあげたいなとか、ケーキ買ってあげたいなーなんて思っ

たけど、もう全然何にも買えなくて。でも何かあるかもしれないと思ってイオンに寄ってみたら、もう唐揚げ弁当しかなくて（笑）これじゃ息子も食べないし、ある物で食べたほうがいいかなーと思って、もうお祝いなんかもできるような感じじゃなかったですね。

橋　いつ学校再開するかもね、本当にずーっと分かんなかったよね、4 月に入っても分かんなかったよね。

A　分かんなかったし、「状況見てからまた連絡しますから」って言われてて、今度 7 日にまた大きい地震がドンと来たじゃないですか。

橋　あーそうそう。

A　だからまたちょっと分かりませんねって（笑）

橋　4 月 7 日かぁ。あれで結構心折れて……。

A　そう！なんとかやれるかもとか思ってて、目処が立った時にトドメを刺すように来たんで、なんか 2 回目のほうがしんどかった。

橋　しんどかったなー。私が言うのはちょっと申し訳ないぐらいだけど、結構その 4 月 7 日のやつで心折れた人が多かった。片付けとか、やったー、何とか！何とか終わった！ぐらいのころでね。

A　そう、それを見計らったようにまたドーンと来て、また一からじゃないけど、積み上げてたものがまたガシャッとされて、で、またやったらまた来るのかなっていう……。なんか 2 回目ってやっぱり滅入りましたね。がっかりっていうか。うちは水道が一番最後だったので、「お風呂に入れるー」って入って、2 日後ぐらいにまた断水になったんで、何だろうこれはってすごい思いました。

橋　片付けとかね、ちょっと前を向くぐらいになってきたところで。

A　でもうちなんかは別に家が無くなったわけでもないし、家族が亡くなったとかそういう大ダメージがあったわけではないので、まだまだ幸せだったんですけど。

橋　幸せって……なんかあの、うちは本当に、うちこそ申し訳ないような、免震のマンションで被害はほぼなく、平たいところで津波も来なかった。で、何か私にできることがあればっていう思いがあっても、実際にはユウヤがいるから何もできないし、ずーっとずーっと、何もできなかったっていうか、いや本当はできたんじゃないか……みたいなのは、もうずっと私は持ち続けるんだろうなっていうのは、ある。

A　それとは全然違うことなんですけど、水も電気もガスも苦労はしたんですけど、贅沢に暮らしてたのを見直す機会にもなったなってすごい思ったんですね。ありがたみっていうのをやっぱり嫌でも感じたじゃないですか。だからだんだん工夫していって、みんな上手になっていったじゃないですか。極力水を使わないように、ビニールとかラップとかアルミを駆使してご飯を作って。こうやったらすごく楽にできるっていうのがたぶんみんなそれぞれあると思うんですね。それを何週間か続けてきたからすごくベテランになって、ちょっと楽しくなってきたっていうか、やりくりできるのが面白くなってきたぐらいの時期もあって。でも 4 月の初めにやっと水が通った時に、ほんっとに嬉しくて、やったーってまず一番には思ったんですけど、次に「もっと大変な人がいっぱいいるのに、こんな楽して水出していいのかな」とか、すごく思いました。本当にまだ苦労してる人いっぱいいるのに、もとの生活に戻っていいのかなっていう罪悪感を持つっていうか。

橋　うん。罪悪感、不思議な罪悪感だよね。自分たちも間違いなく被災者なんだけど、そのレベルじゃない方たちの情報がどんどん入ってくるから……。

A　なんか申し訳なくなる、元の生活に近づいていってるのが申し訳ないっていうか、ラクしてしまっていいんだろうかっていう思いがありましたね。なんか、今考えると不思議だけど。

橋　うん。他に大変な人たちがいるのに……。だから子どものこととかで、もっと助けがあれば、みたいな部分があったとしても、いやいやうちなんか的な感じがね。いやいやもっと大変な人たちがいるのにっていう。複雑だよね。

A　うーん。物を手に入れるとか、現実的なつらさって確かにあったんですけど、自分で振り返ってみて一番つらかったなぁと思ったのは、そういう状況でも子どもが入学するっていう楽しみを支えに頑張れるっていうことがあったんですね。それで、本当にいろんな人に助けられて、助け合って生きてこられたんですけど、だんだんいろんな物が手に入るようになって、4 月になったらお店でも学校で使えるような物も売ってて手に入るようになったんですね。その時に、いろいろお世話になってる同級生の友達とかに「こういうのも手に入るようになったから、もし入学の準備ができてないんだったら私できるよー、準備しとこうか」っていう感じで、喜ばれるだろうなと思う気持ちだけで連

絡取ったんですけど、「何言ってんの？」ってメール返ってきたんですよ。「こんな状況なのに、もっともっと大変な人たちがいるのに、そんなこと言ってる場合じゃないでしょ」っていう感じで言われてしまって。私としては、苦しい状況だけども、夢を持ったり希望を持つこともダメなのかって、本当に頭殴られるぐらいの衝撃受けたんですよね。それで、手に入らない物を無理を言って手に入れたとか、誰かに迷惑をかけてまでも手に入れようとしているわけではなく、いろんな準備ができるようになったから、みんなの分もって……思うのもダメなのかなって。被災したら希望を持つこともダメなのかなって、すごい悲しかったんですよね。そのメールをもらった時に、なんかただただ涙が出たというか。やっぱり考え方は人それぞれなんだなって。もちろんその人も間違いじゃないし。

橋　うん。

A　だから……自分にとって良かれと思うことでも相手はそうじゃないんだなっていうところも感じたし、ただあの時、慎ましく生きるのが正解だっていう方もいるのはそこで気付けましたけど、私はささやかでも明るい希望を持っていたほうがモチベーションが上がって頑張れたような気がします。

橋　うん。助けたいっていうか、うちだったら用意できるから買っていこうか？みたいな、良かれと思って、ね。

A　そうですね、私はもう喜ばれるだけだと思っていたんですけど……。

橋　あの頃そういう……まぁその時のその彼女の心情なのかもしれないし、いろいろ「ああそうなのか」っていうのはあったよね。結構原発のことでが多かったんだろうけど、デマがたくさん蒔かれたのよ、メールとかでも。それこそ、丸森だったりとかちょっと県南のほうとかって危なかったじゃない。で、ほらヨードを飲めばいいとか、いろいろデマがダーって流れて。そのころ私、親の会いっぱい入ってたの。いっぱい所属してて、ある親の会の会長さんで、すごい人、実行力がすごいっていう人が、それを流してたのね。え？って。彼女は「そういうのが回ってるからよく考えようね、行動しようね」みたいなのじゃなくて「必要があれば配ります」みたいなことをチェーンメールみたいに、それが助けになればと、その時その人は思ってた。でも、やっぱりびっくりした。「え、この人がこういうことをしちゃうんだ」って。何も返しようがなくて、「それ気をつけたほうがいいですよ」とかも返せないし、それを見て本当にそうしちゃう人がいるかもしれない。だけど、「それは間違いですよ」とは返信もできなかった。ああこうなっちゃうんだって。だけど本人は良かれと思ってる。

A　そうですよね。良かれと思っての出し方が人それぞれじゃないですか。

橋　うんうん。彼女と関係性が私すごく遠かったから、もうちょっと関係が近くて、「ダメダメ、そんなの信じちゃダメだよ、回しちゃダメだよ」って言った人もいると思うの。そのあと回ってこなかったから。ああ、こういう時ってそうなっちゃうんだなって。

でも、震災 3 日目ぐらいの時にこんなこともあった。うちって目の前にコンビニがあるの。マンションの 8 階なんだけど、斜め前にコンビニ、セブンがあって。最初だけやっぱりレジがジャラジャランって昔の商店みたいにやって、とにかくある物を買わないとって、何かを買ったのよね。

A　買えたんですか？

橋　ほんっとに最初。その店舗にある冷蔵ケースとかが使えなくなるから、店的にも売らなきゃならないっていうのがあったから。

A　ああ。

橋　ただエレベーターが 8 階から使えない。非常階段は外に、あの鉄のよく見る非常階段があって、これやばいなって、次におっきな揺れが来たらこの非常階段ごとアーって……

A　（笑）

橋　なるなって。不用意に非常階段で降りるのもダメだって思ってて、1 日 1 回にしようって。それも、私がアーってなっちゃったら息子が残されちゃうから。実際に鶴ヶ谷で非常階段が落ちてしまったところがあったから、それは県営住宅とかそういうところだけど。それで 1 日 1 回ぐらい行こうみたいな感じでやってた。で、コンビニはもちろんすぐ閉まって、マンションの上からセブンの配達車とかが来ないかな来ないかなーって見てた。

A　あーそうか、そういうのが見れるんだ。

橋　あのころってコンビニも襲撃を避けるために、新聞紙とかで店内を見れないようにしてたのよね。だから、あ、もうすぐ開くかもしれない、もうちょいで開くかもしれないってちょこちょこ見て、開いたーってなったら行ったりとか。それで一人でコンビニに行った時、おにぎりは一人 2 個まで買えたけど、あー 2 個かぁって（笑）でも一人

だからしょうがない。一応「障害のある家族がいて来れなくて」って言ってみたけど「すいません一人 2 個です」って言われて、「ああそうですよね」って。で、そんなことを言ってたら、すごい若いお兄ちゃんが、高校生か大学 1 年生ぐらいの若いお兄ちゃんが 2 人いて、「家族の分買えましたー？」って。「一人 2 個までだから……」って言ったら、「どうぞ！」って。その子たち 2 人いたから 2 個ずつ買ってたんださ。「どうぞ、僕のいいです」「家に結構あるんですよ」ってくれようとするから、もうダー（涙）みたいな。あー、日本も捨てたもんじゃないのね、ああこんな人いるんだって。もう 1 人も「いいよいいよ、僕のも僕のも」って言うから「いやいや、とんでもないとんでもない」って。でもとってもありがたいから、いただいたの。でもタダでもらうわけには絶対いかないからって、とにかくお金だけはもらってくださいって、お金だけ渡して、で、いただいて。もう、ああー（涙）って。

A　買うより嬉しい。

橋　うん。ああこういうこともあるんだって。あの頃って商店街とかも、「どこどこの店が何時から何時まで開きます」とか、閉まってるシャッターとかにベタベタ貼ってあったりとか、ちょっと匿名で助け合うみたいなのもあったんだよね。だから、グサグサッて傷つくこともあったけど、全然知らない人に助けてもらう、不意に助けてもらうこととかもあったなって。そういうのもなんか残したくて。

A　そうですよね。

橋　だけど、つらかったほうがたぶんいっぱいあったはずだから。その時は厚意で、役に立ちたくてっていうことに対して……なんか、ガンって（笑）だけど、そちらもたぶん傷つけようとしてではないのさね、その時の彼女の心情が、そんなんじゃない、そんな時じゃないってなったんだろうし。

A　まぁね、そういうつもりじゃないっていうのは分かってるし、一人一人みんなね、考えとか意思があるじゃないですか。だからそこで途切れたわけではなく、卒業してからもやり取りはしてるので。その時は確かに私はウワッと思って、良かれと思って言ったのに……っていう気持ちがなかなか取れなかったんですけど、でもやっぱり人それぞれの考えだなと思って、自分の気持ちを押しつけるのは正しくないと思ったので。

橋　うん。いろいろだなっていうことにも気付かされるのがあったよね。

A　だからそのコンビニのお兄さんたちと同じように、思いがけないところで助けてもらうことがいっぱいあったじゃないですか。自分で買っただけでは得られない嬉しさっていうか、気にかけてもらうとか、いいよって分けてもらうありがたさ、それもすごく感じられたし、逆に、この人こういう人なんだっていうのも、気付きたくなかったけど気付けたっていう良い機会。

橋　そういう時だから出る部分（笑）

A　私、この人すごい馬鹿だなって思ったことがあったんですけど、震災の時に、新港とか塩釜のほうのコンビニとか……。

橋　襲撃されたね、いっぱいね。キャッシュディスペンサーの機械とかもたくさん、それは県外かもしれないけれども、襲われてたよね。

A　でも、「あそこに行ったらもうタバコがカートンで落っこってたから拾ってきた」とか、「工場とか配送の会社の近くに行ってすっごい酒持ってきた」とか、それを後から自慢げにお話しされてる方がいたんですけど、ほんっとに悪いこと起きればいいのにと思った（笑）よくそういう考えが思いつくなーって思ったっていうか。うん、ちょっとすごいなって思いました、悪い意味で。

橋　得意げになんか言ってるのがね、「手に入るよ」とかね。

A　実際やってたとしても黙ってたらまだあれだけど、言うっていうことは罪悪感がないってことじゃないですか。悪いけども手に入れたいから仕方なく……っていうのとはまた違う感じが取れて、ああこの人はこういう人なんだなっていうふうに気付くとかね……。

橋　そういう時に出る。

A　うん、本性って出るなーってすごい思いました。やっぱり良い人にも悪い人にも気付けた。ああそうなんだって分かる機会ですね。うちは一軒家だったんで、**橋**本さんたちとは違うと思うんですけど、もう何回も余震が起きてたから、近所で玄関の鍵かけるなって話し合って。

橋　そういうのあったね。

A　もし何かあった時に閉まってたら助けに行けないからって言われて。

橋　閉まっちゃったら困る、出れなくなったら困るっていう感じね。

A　そうなんです。少し古い家だと、歪んじゃって戸が開かない。

橋　何回も地震が来てるから、歪みはあるから。

A　そうなんです。だからもうとにかく「何かあったら入れないから開けてて」って言われて。

橋　お互いに開けてようみたいな。

A　そう、夜とかでも「大丈夫？」って。